

# 学校だより

令和8年3月26日(木) 特別号

心の豊かな生徒・自ら学ぶ生徒・強くたくましい生徒

さいたま市立西原中学校

住所 さいたま市岩槻区大字岩槻3750番地

電話 048-756-1117

学校 Web ページ <https://nishihara-j.saitama-city.ed.jp/>



## 有難う

校長 細井 博幸

3月に入り、冬の名残を感じる日が続き、昨年同様、季節外れの雪に見舞われる日もありましたが、先週からは、春の訪れを実感する穏やかな天気となりました。武道場周辺の桜は、昨年よりやや早く花が咲き始めており、来週末には満開となるようです。

13日(金)、第42回卒業証書授与式が行われ、昨年に引き続き、全校生徒、そして多くの来賓、保護者の皆様に見守られながら卒業生の旅立ちを祝いました。本校に着任して3年目となる私にとって、校長として入学式から卒業式までの中学校生活3年間の全てを見届けた初めての学年となりました。卒業証書授与では、卒業生一人ひとりの凛とした眼差しを受けとめ、証書を渡しながらか、これまでの思い出が走馬灯のように頭を駆け巡っていました。長年小学校で勤務し、校長として初めて中学校で勤務した私にとって、この3年間の生徒一人ひとりの大きな成長を実感し、中学校教育の偉大さを再認識しました。特に最後の校歌斉唱は、これまで朝礼などで何度も聞いてきましたが、この3年間で最も素晴らしい校歌であったと感じました。力強く、本気の歌声を式の最後に聞き、これまでの地域、保護者の皆様、そして本校教職員の3年間の熱心な指導の成果を感じるとともに、感謝の気持ちに包まれました。素晴らしい卒業証書授与式を目の当たりにした在校生の皆さんにとっても、自身の卒業について考える貴重な時間になったのではと感じています。卒業生の皆さんのこれからの人生が幸せ溢れる日々になることを願ってやみません。



さて、本年度の学校だよりも今号で最後となりました。この3年間で振り返りますと、初年度の5月に約3年間続いたコロナ禍が収束しましたが、すぐにコロナ禍以前の学校生活に戻ることができる訳ではなく、じわりじわりと日常生活を取り戻す日々となりました。コロナ禍で中止されていた地域の夏祭り、西原☆フェスティバルなどが再開し、地域の中で本校生徒が活躍する姿が戻ってきました。感染症拡大防止のための様々な制約を気遣うことも少なくなり、マスクのない生き生きとした生徒の表情、給食時の楽しい語らいが戻ってきました。当たり前前の生活が当たり前でなくなることをコロナ禍で経験したことにより、「当たり前」の反対語が「有難い」ことであることを再認識させてくれたように感じています。そして、校長という立場で過ごしたこの3年間は、毎日が「有難い」日々であったと感じています。教諭時代は、学校という組織の最前線に立ち、日々子どもたちと関わり、成長を間近に感じられるやりがいと満ち溢れる日々でした。教頭時代は、教職員を束ねる立場として多くの業務をこなしつつ、日々起こる様々な出来事への最適解を検討し、校長の承認を得ながらよりよい方向に学校を導く忙しくも充実した日々でした。そして校長となり、自らが直接行動することは少なくなりましたが、目指す学校の姿を示し、報告を受け、必要に応じて決断をし、自分の責任のもとに学校経営ができる恵まれた日々となりました。教職員、生徒の成長を俯瞰して見守り、自分の想定を超える取り組みを後押しし、その成果に驚き、喜び、感謝を伝える「有難い」日々であったと感じています。まさに校長という職は、周囲への感謝に満ち溢れた職であると感じています。有難うございました。

地域・保護者の皆様、教職員、そして日々成長し続ける生徒達に支えられ、令和7年度が終わります。それぞれ進級する現1・2年生、新たに加わる新入生が幸せ溢れる令和8年度となるよう、教職員一同、入念な準備を行い、4月8日(水)の始業式、入学式を迎えたいと思います。引き続き本校の教育活動への御理解、御協力をよろしくお願いいたします。